

事業所の概要表

(令和元 年 6 月 5 日現在)

事業所名	今治市社協グループホームゆいの里			
法人名	社会福祉法人今治市社会福祉協議会			
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435-1			
電話番号	0897-74-1370			
FAX番号	0897-74-1377			
HPアドレス	http://www.imabri-shakyo.jp/caresupprt/grouphome/yuininosato.htm			
開設年月日	平成 17 年 7 月 11 日			
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☒ 平屋 (1) 階建て (1) 階部分			
併設事業所の有無	☐ 無 ☒ 有 (今治市社協小規模多機能ゆいの村)			
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人	
利用者人数	9 名 (男性 1 人 女性 8 人)			
要介護度	要支援2 1 名	要介護1 1 名	要介護2 2 名	
	要介護3 3 名	要介護4 2 名	要介護5 名	
職員の勤続年数	1年未満 1 人	1～3年未満 人	3～5年未満 人	
	5～10年未満 1 人	10年以上 9 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 3 人 介護福祉士 3 人 その他 (看護師(1名) ヘルパー(7名))			
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)			
協力医療機関名	大三島中央病院 藤田歯科			
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 2 人)			

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☐ 無 ☒ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり 800 円 (朝食: 200 円 昼食: 300 円) おやつ: 食費に含む 円 (夕食: 300 円)	
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・水道光熱費 円 ・通院介助 (送迎・付き添い代規程)円 ・理美容代 円 ・医療費 円 ・レクリエーション行事 円	

家族会の有無	☐ 無 ☒ 有 (開催回数: 1 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間	
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者 ☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者 ☒ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民 ☐ 利用者 ☐ 法人外他事業所職員 ☐ 家族等 ☐ その他 ()

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年6月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	9	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	12		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870201195
事業所名	今治市社協グループホームゆいの里
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏 名	菅 千枝
自己評価作成日	令和元年 年 6 月 5 日

【事業所理念】※事業所記入 「笑顔育むゆいの里」 ※自分らしさを大切に、その人の思いを共有します。 ※やさしさ、笑顔にふれあいながら、家族・地域とともに過ごしていきます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・(11・C)集団を好まず皆の輪に入らず離れた場所で過ごす方がいる。本人の無理のないように共同生活に馴染んでいけるような支援の工夫について。☆誕生会やレクリエーション、踊りや行事等本人の意向を確認しながら短時間になる事もあるが参加できている。・(18・b)定期的に歯科検診などを受ける機会を確保し正常な状態で咀嚼・嚥下出来る様になっている。☆歯科受診をし口腔内の状況を確認し様子を見守りながら美味しく食事が出来る様に支援している。・(20・a)入浴し清潔を保持するだけを目的とせず入浴を楽しく、楽しみになる様な取組みについて。☆入浴前に自分で着替えの服を選んで頂いたり入浴時職員との会話や出た後の保湿クリームや化粧水などの肌のケアも含め鏡を見ながらのスキンケア棟も一緒にしながら入浴を楽しめるように支援している。・(35・b)初回契約時に「重度化した場合の対応に係る指針について」十分に把握してないと思われる。再度重度化した場合について再確認する必要がある。について ☆面会時、再度、内容について確認し理解と承認して頂ける様に説明をしています。家族の思いや希望を再確認出来ました。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 庭の手入れや掃除が行き届いている。玄関には、紫陽花などを飾っていた。年末には角松を飾っている。玄関を入ると人の姿が見える。 地域行事などに積極的に参加している。三味線やギターなどの地域ボランティアを受け入れており、その際には地域の人にも呼びかけ一緒に楽しんでいる。7月には利用者の誕生会にギター演奏をしてくれる予定になっている。 薬剤を使用している利用者はいない。夜間、ベッドに腰かけているような人も見られるようだが、お茶を飲んだり、トイレに行ったりして、自然に就寝できるよう支援している。
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	・日々の会話の中や定期的に、または必要時に個々にモニタリングを行い希望や行いについて話し合っている。	◎		◎	日々の中で知った利用者の希望や意向についての情報は、ミーティングやケアカンファレンス時に話し合い、「〇〇さんの力、強さ、輝き探しシート」(私の輝きシート)に記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	・毎月のケアカンファレンスでどのようなケアが望ましいか話し合っている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	・面会時や電話等にて日頃の様子をお伝えし本人の思いについて話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	・毎日の様子や本人からの会話等記録し共有して支援に生かしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・出来るだけ本人の思いを主として検討しているが職員の思いが強かったり家族の思いが優先している時も見られる・				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	・入居時に出来るだけ家族、本人に色々教えて頂いている。忘れていた事も多く日常生活の中でその人をもっと良く知り変化を確認している。			◎	入居時、家族などから知り得た情報を基本情報シート(バックグラウンドアセスメント等)に記録し、日々のかかりの中で知った情報を書き足している。また、家族へ送付する手紙には、「さがききごぼうが天下第一品」「歌が上手」「時々お姉さんの名前が出る」などの日々の中で得た情報を記載している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	・本人の輝き又思い等教えて頂き日々の生活の中でも現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	・ミーティング時、気付いた事を話し合い、発した言葉を共有しながら把握している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	・毎日の口調や行動の変化について話し合っている。その前後にあった出来事や、家族や利用者さんとの関わり等の等について振り返り考察している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	・一人ひとりの性格やリズムに合わせて声掛けの方法や誘導の仕方を変えている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	・毎朝のミーティングや連絡ノートにて情報の共有を行い本人にとって過ごしやすい環境づくりを共有している。			○	利用者の言葉や困っていることなどをもとにして、毎月のケアカンファレンス時に検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	・個別カンファレンス等で本人がより楽しく安心して暮らす事が出来る様に話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	・日々の支援の中新たな課題が見つかった時カンファレンスを待たずに現場スタッフで検討し共有している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	・ケア記録に個々の目標や具体的なケア内容について記録し確認しながらケア出来る様にしている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	・本人の思いや日々の過ごし方について変化のあった時、面会時や電話にて連絡し相談し結果内容を連絡ノート等で共有している。	◎		○	本人や家族の意向を踏まえケアカンファレンス時に話し合い、職員の意見などを反映して作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	・体調を確認し地域の祭りや行事への参加が出来る様になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	・2ヶ月に一度の里だよりでの報告や必要時のお互いの連絡。また毎年行われている地域の方々との合同避難訓練や夏祭り等行い協力を頂いている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	・ケア記録にそれぞれ個別の目標やケアの内容を記録している。また得意な事や好きな事を記録し共有しながら支援している。			◎	ケア記録用紙に介護計画の目標やケア内容を記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	・個々のケア内容について毎日評価し毎月の担当者が月間評価を行いカンファレンス等で検討し支援に繋げている。			○	毎日、その日のリーダー職員がケア内容が実践出来たか○△×で評価を行い、ケア記録に記入している。その結果どうだったかは、朝の申し送り時、口頭で話すことがある。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	・ケア記録に毎日の様子を記録し特別変わりがあった事や気付きた言葉等具体的に記録している。			△	介護計画に沿ったという点からは、ケアカンファレンス時の口頭での話し合いが多い。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	・毎月のカンファレンス記録やわたしの輝きシートに本人の思いや様子職員の気づき等も記録している。			◎	個別の月間評価表に記録している。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・毎月のケア記録の内容や期間について確認し必要があれば見直し修正を行っている。			◎	ケア記録用紙に介護計画の目標やケア内容を記入し、期間も明記している。期間は管理者が管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	・利用者個々に行う月間評価と毎月のカンファレンスで見直しを行っている。			◎	個別の月間評価表に1ヶ月の状況をまとめ、現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	・現状に応じた具体的なケア内容について随時見直しを行い連絡ノートで共有し実施しているが実施に即した計画が間に合っていないが月単位で見直しを行っている。			○	身体状態が低下した場合は見直しを行っている。状態変化時でも回復の見込みがあるような場合は、観察し、支援内容を手直ししながら対応している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・毎月第4月曜日をミーティングの日としスタッフが集まってカンファレンスや必要な検討を行っている。緊急時には勤務中のスタッフと相談し対応。必ず連絡ノートで共有している。			◎	月に一回、事業所ミーティングや系列事業所とのミーティング、管理者会を開催しており、緊急案件などもこれらの会議時に話し合っている。ミーティング録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	・皆の意見を聞いたり具体的な内容についてはみんなの意見交換がしやすい様な雰囲気づくりまたカンファレンスでは担当者が進行や取りまとめを行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	・毎月、第4月曜日をミーティングの日と決め全員参加を原則とする為、事業所内事務所にて9:00～11:00の間にて開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	・毎月職員が交代で議事録を記録。参加できなかった職員には確認してもらう様にしている。			○	基本は、全員参加で会議を開催しているが、欠席者がいた場合は、後日ミーティング録を確認するよう管理者が声をかけている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	・連絡ノートを情報共有の基本とし皆の同意を求める内容、集計を必要とする内容や急を要する時は電話連絡にて随時確認出来るようにしている。			◎	連絡ノートを活用して、家族とのやり取りや医療に関すること、業務などについて共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	・連絡ノートや回覧文書については出勤時チェックし確認出来るようにしている。	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	・本人の出来る事・出来るような事を中心に声掛けしたり一緒に行っているがその日の気分や調子により出来ない事もある。本人の希望に応じて対応している。				足の指の痛みがある利用者には、いろいろなスリッパを用意して状態に合うものを試すことができるよう支援している。そのような取り組みを家族への手紙にも記載していた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	・一日の生活の中で個別レクや集団レクについては参加を確認したり行きたい所や食べたいもの等本人の意向を確認している。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	・日常会話の中でも出来るだけ、利用者が考え答えられるような問い掛けを行いながら思いを引き出し支援を行う様にしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	・出来るだけ自由に選択できるように、時間に余裕をもって食事や就寝等も声掛けしている。				地元の馴染みのある地名や知っている人の名前などを出しながら会話している場面がみられた。利用者の表情がじょじょに明るくなっていく様子がうかがえた。
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	・日々の会話や生活の中で気付いた言動等情報を共有しながら働きかけ、雰囲気づくりを行っている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	・その時の表情や仕草など細やかな変化等様子を見守りながら本人の意向の確認をしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	・毎年個人情報の取り扱いや虐待、身体拘束防止についての研修を行い人権や尊厳についてミーティング等で確認している。	◎	○	◎	成年後見制度などの外部研修を受講した職員がミーティング時に内容を周知して全職員で学んでいる。家族への手紙の中でも、利用者の行動についての表現(「行動が慎重」「散歩も自分で決めて行動する」など)に配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	・出来るだけ利用者さんの思いに添いながらその人にあった方法を考慮している。唄いながらの行動はスムーズにできる時が多い。			◎	利用者が席を立てトイレや居室に向かうと、そっと付いていきサポートをしていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	・さりげなく声掛けしながら必要な介護を行いながら不安や羞恥心、プライバシー等に考慮しながら支援している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・声掛けノックをしながら入室の許可を頂いてから入室するように心掛けている。			◎	入室前に、「○○さんお部屋を見せてもらってもいいですか」と本人の許可を得ていた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	・個人情報の取り扱いやプライバシー保護についての研修を受け守秘義務の徹底の周知を行い公務を問わず情報の取り扱いには気を付けている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	・日常的な関りの中で、出来る事をお願いし、おれ、感謝の言葉を伝えていくと役割や達成感を持って笑顔が見られ言葉数も増えている。				男性の利用者を女性の利用者が気にかけてあげるような場面がみられた。 三連結した椅子をテレビの周りに3つ配置し、複数人が座って一緒に作業したり過ごしたりする場面がみられた。 職員は、利用者を椅子まで誘導すると、すでに座っている人に「お隣いいですか」と聞いて隣に座れるよう介助していた。着席後は、隣の人に「ありがとうございます」とお礼を言っていた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	・少数数でもみんなで関わり合いながら思いを伝えやすい様に働きかけている。気付きの多い利用者さんは出来難い方への声掛けやお手伝いをして下さっている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	・場所の移動にて個々の居場所がつい固定されがちになっているが、個々にとり居心地が良いか等職員が話し合い誘導時や声掛けを心掛けている。世話役の利用者もおられ助けってもらう場合も多い。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	・特にトラブルは無いがお互いの思いを確認しながら仲良く暮らせる様な環境づくりを心掛けている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	・家族構成や家族の関わり、本人を取り巻く人的環境についてスタッフ間で情報の共有を行い良好な人間関係が保てるようにと心掛けている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	・地域との関係や地元での役割や生活の中で本人が大切にしてきた思い等家族や地域の方々に教えて頂きながら色々な情報を共有できるようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	・出来るだけ今まで参加していた地域行事や住み慣れた生活環境に出掛け知人友人と会う機会を得られるように積極的に出かけている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・事業所で行っている、夏祭りやマンドリンコンサート、元氣ふれあいフェスタでの交流後の面会者もおいでたり地域の行事にも積極的に出かけている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	・体調を確認しながら天候の良い日には散歩に出掛けたり事業者内での交流やドライブ、花見地域行事にも積極的に参加している。	◎	○	◎	毎日のように、個別に声かけなどして、玄関から出て外のベンチで過ごしたり、散歩したりできるよう支援している。 地域行事や系列事業所との行事などに参加している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	・地域ボランティアの協力を得ながら過ごして頂いている。地元の、小、中、高校生が認知症について学び交流を続けている。				外出に行ったり、ひなたぼっこ時に花が咲いているのを見て、花を見にドライブに出かけたりすることもあるようだ。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	・重度、軽度と区別しないで皆と一緒に外出出来る様に支援している。			◎	外で過ごす折には、麦わら帽子をかぶり、歌を歌ったり、お茶を飲んだりして気持ちよく過ごせるよう工夫している。そのような様子を事業所便りに載せている。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	・棟外への外出行事を計画したが体調不良者がおいでで中止となったが今後協力をお願いしながら計画したいと思っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	・認知症について研修を受け理解し支援へとつなげている。ケアについて受け入れにくい場合には、さりげなく職員も交代しながら声のトーンにも気を付けながら支援をしている。				昨年8月の研修時に「生活リハビリとは何か」について勉強をしている。 昼食後、職員が洗ったお盆を用意すると、利用者は自主的に拭いていた。 昼食時、テーブルに急須を用意しており、自分で継ぎ足している利用者の様子がみられた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	・本人の調子を確認しながら無理強いせず楽しい雰囲気ですらに身体を動かし、身体機能低下予防出来る様に気を付けている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	・排泄、入浴、日常生活動作について見守りし、難しかったり戸惑っている様子がみられたら少しずつ介助するようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	・一人ひとりの得意な事を日常生活の中から読み取りスタッフで共有し一緒に手伝ってもらいながら楽しみに変わる様な声掛けをしている。				昨年8月に、玄関横で花火をして遊んだり、9月には、図書館でDVD鑑賞をしたりする機会を作っている。 日常では、床のモップ掛けやお盆拭き、洗濯物たたみなどが利用者の役割になっている。そのような場面を事業所便りに掲載している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	・得意な事を他の場でも生かせる様に、日常的に出来る事を探しスタッフが一緒になって本人主体で取り組めるように行っている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	・地域行事に参加し知り人と出会う機会もあり声を掛けて頂く事もある。地域の方がグループで唄っている時「私も唄いたい」と前に出て歌われたこともある。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・トイレへ行かれた時や時々鏡を見られ整髪に気を付けられたり服を色々と着替えられたり、着たい服、好みの服についても把握している。				自分で膝にタオルを置いてから食事をする人の様子がみられた。食べこぼしは、職員がそっと拾っていた。 年末やお盆前には散髪を支援している。 利用者はそれぞれに季節に応じた似合う洋服で過ごしていた。 自宅まで衣類を取りに行くことに付き添うケースがある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	・本人の希望を優先しながら選んで頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・事前に昔の情報や意向について確認しながら出来るだけ本人の思いに添えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・衣服の調整についても家族が定期的に衣替えをしてくれる方もいれば、担当職員が気候を見ながら本人と相談しながらその時々で服装で過ごせる様に支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・整髪や衣服の乱れ等も職員が気を付けながらさりげなくカバーしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	・本人が通い慣れた美容院の協力頂き利用できている。またこだわりや馴染の店が無い方は訪問してくれる理美容院へお願いし希望の髪型をお願いしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	・季節に合った服装や本人が好む色や形にも家族からアドバイスを頂き、出来るだけ本人の好む服装へと心掛けている。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	・食事の大切さ、嚥下・咀嚼が及ぼす影響、誤嚥の影響等研修の機会もあり職員間で共有している。				発注した食材が届いたら、利用者と一緒に仕分けるなどしている。 調査訪問日の昼食用に利用者がゴマを擦っていた。 食後は、利用者がお盆拭きをする様子がみられた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	○	・献立は季節に合った食材からスタッフが作成している。状況や希望に応じて変更したり一緒に準備をしたりかたづけが出来ている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	・一緒におやつを買いに行ったり調理や片付けを手伝って頂きながら、役割意識が持て達成感や充実感が得られるように声掛けや誘導に気を付けている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	・入居時や随時本人や家族から嗜好について確認している。食べられなかった物も時には食べられたり、摂取量にむらが見られる方もおいでるがアレルギー等は見られない。				郷土料理のいぎす豆腐を昼食に採り入れていた。 利用者に食べたいものの希望を聞くと寿司の希望が多く、時々献立に採り入れている。
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	・献立は季節に合った旬な食材を使う等考えている。献立表を基本にお祝い事や行事に合わせ随時変更している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	・硬い物は取り除く工夫や食べやすい大きさ、見た目も食欲をそそる盛り付け等気を付けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	・出来るだけ持ちやすく手に馴染むような深さや食べやすさにも考慮している。			○	茶碗や湯飲み、箸等は事業所で用意している。 小さい器に盛っており、利用者は器を手を持って食べていた。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	・利用者さんと同じ食卓を囲み一緒に食事しながら利用者さんの食事の様子を見守りながら必要時には食器の位置等さりげなくサポートし食事を楽しめるように支援している。			○	職員2名(一人は利用者と同じもの、もう一人は持参したお弁当を食べている)が利用者と同じテーブルで食事をしながらサポートしていた。ほかの職員は別部屋で休憩時間を取っていた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	・その方の食べるペースや嗜好を大切に食べて頂ける様にまた、必要時には声掛け介助しながら美味しく食べて頂ける様に支援している。	◎		◎	居間から台所の様子が見えたり、料理のにおいがする。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	・食事摂取量や嗜好等も把握し事前に調整を行っている。一日の食事量を確認しバランス良く食せ、水分摂取量も確保して頂ける様に支援している。				職員は、献立を伝えてサポートしていた。 さらに、今後、家族や地域の人にも事業所で提供する食事を試食してもらえよう、機会を工夫することを検討していた。
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	・食事摂取量が少ない場合には、10時、3時のおやつの内容を調整し栄養のバランスを保てるように水分補給も少ない場合は回数や内容をも好みに考慮しながら支援している。				毎月、3事業所の代表者が集まり、食事に関することについて話し合いを行っている。 年3回、各5日間の食事内容をもとに、栄養・カロリー摂取状況を確認している。
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・年3回のカロリー計算を行い実際の栄養所要量を確認したり定期的な受診時の検査などにより栄養状態を確認している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	・刺身や傷みややすい食物は配達した日に食せる様にまた基本は火を通す料理を食せる様に。食器は洗浄後高温で乾燥し衛生的にと心掛けている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	・口腔ケアの研修に参加しミーティング時に研修内容をスタッフ間で共有することにより全員が口腔ケアについて勉強する機会を確保している。				毎食後の口腔ケア時に目視している。気になることがあれば、記録して必要があれば受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・口腔内の状況の把握や口腔ケアの仕方に合わせて声掛けや誘導を行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	・定期的に内部・外部研修にに参加し口腔ケアの仕方や知識を習得し支援に生かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	・自力で可能な方には声掛け、見守りを行いスムーズに出来ている。必要な方は洗浄剤で消毒を行っている。出来難い方にはうがいだけでもと声掛けしている。				昼食後の歯磨き支援の一場面では、利用者が席から立つ際と洗面所で歯ブラシを用意する際にサポートして、他は本人に任せていた。
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	・食後は声掛け誘導しながら口腔ケアを行ない清潔を日常的に支援している。必要時には歯科検診を受け治療している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	・随時口腔ケアを行い、異常があれば受診し必要時には治療を行えるように支援している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	・オムツ使用については排泄ケアの最終手段との認識をスタッフ全員が持っている。パットや紙パンツを使う事で安心感を持てれる方の場合はブライバシーに配慮しながら支援をしている。				カンファレンス時に、排泄用品の使用が適切か話し合い支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	・便秘に対する症状の出現や便秘が及ぼす全身症状の出現等についても理解し排便症状を確認したり便の性状についても観察記録している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	・排泄パターンや排泄の自立度なども把握しトイレに誘導したり、排泄時に出来ない部分の援助を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	・その時々排泄状況を確認しながら本人が気持ちよく過ごせる様にパットの性状や吸収量や使用具合をも確認しながら調整している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	・泌尿器系に異常が無く、夜間頻尿になる方や何回もトイレへ行かれ睡眠を妨げている状況が見られたりする場合は日中の活動量を増やしたり精神的不安の原因についてミーティング時に話し合っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	・個々の排泄パターンや排泄時の自立度など把握し定時にトイレ誘導したり排泄時に出来ない部分の介助（パット交換）等を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	・日中、夜間と個々の状態に合わせ本人家族に説明し使い分けている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	・排泄状態に合わせ紙パンツの薄い物を選んだり自分でトイレに行かれる方はパットがトイレに落ちない様にテープのついたものを選んだりと個々に合わせている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	・ヨーグルトや繊維質の多く含んだ食物を取り入れた献立や散歩、体操等しながらスムーズな排便がうながせるようにしている。。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	・入浴時間についてはほぼ、午後からの決まった時間に予定している。時間帯や回数（好き嫌い）、長さ、温度については随時確認しながら調整し楽しんで頂いている。	◎		○	2日に1回、または、毎日入浴を支援している。その都度本人に希望を聞きながら、自分できるように支援することや清潔保持を意識して支援している。さらに、入浴を楽しむという観点からも支援を工夫してみてはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	・一人ひとりの入浴パターンに合わせて自分のペースで入れる様に支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	・自分で出来難い部分のみ介助し見守りし、声掛けしながら本人のペースで入れる様に支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	・無理に入浴を勧めず、入浴以外の目的で脱衣時まで誘導し、会話をしながら結果満足して入浴出来る様にしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	・入浴前に必ずバイタルチェックと一般状態の観察を行っている。入浴可否の判断に迷う時は看護師と相談し、本人の状況を確認しながら可能な限り入浴している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	・個々の睡眠時間や夜間の睡眠リズムなどのついて把握し、穏やかに睡眠できるように随時確認している。				薬剤を使用している利用者はいない。夜間、ベッドに腰かけているような人も見られるようだが、お茶を飲んだり、トイレに行ったりして、自然に就寝できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・夜間トイレに頻回に通ったり。日中の午睡が目立ったり夜間再々目覚めている利用者さんについては日中の活動量を増やしたりと、昼夜逆転を予防している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	・眠剤について、服用している方はおらず眠くなった表情や動作を確認し、居室に誘導したり飲食物をお勧めしたりして自然に入眠出来る様に支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	・食後、自分のペースやタイミングで居室に帰られベットにて休まれたりテレビを観たりと過ごして頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	・お誕生日や母の日プレゼントを送ってもらった時お礼の電話を掛けたり、家族の声を聞きたいとの申し出時には電話を掛けている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	・家族から連絡があった時には本人と代わり電話口で会話が聞き取りにくいときにはスタッフが間に入り会話の繋ぎ役をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	・本人からの希望や家族からの電話時には本人に代わってもらいゆっくりと会話を楽しめるように支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	・本人に手渡しして読み難い所は変わりに読んだり、こちらから電話を掛ける様お勧めしたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	・本人家族の希望を出来るだけ尊重し希望があれば連絡したり荷物が届く等何らかのきっかけがあれば本人に電話口でお礼を言って頂く等関りを持てる様に支援している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	・お金を自己管理している方もおいで親戚の方と一緒に必要なものを買い物にいかれている。神社の参拝やお大師参りまた、行事の参加時必要時には個々にお賽銭や現金を持って頂いている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	・家族の協力もあり、定期的に現金での買い物は行っていない。契約している商店での後払いによる買い物に行く機会はあるが金銭の支払い等は行っていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	・近所の商店には食材や必要な日用品の配達などお願ひし馴染みでもあり買い物の機会を作る意味での協力は得ている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	・現金を持つことにより、安心されている方は家族の希望にて持って頂いている。随時所持金を確認しながら続けて持って頂いている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	・多額の現金は持ってもらうず本人や家族と相談しながら安心できる少額を持たれている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	・日用品や医療費等必要な支払いがある場合直ぐに支払いが出来る様に、取り扱い規程に基づき契約し、現金を預かっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・必要時には家族とサービスの利用状況について相談し、急を要する場合は迅速に本人家族と検討し本人に不安を与えない様に柔軟なサービスの多様化に取り組んでいる。	◎		○	家族と出かける際に更衣などして準備を手伝った事例がある。自宅に戻ってみようような支援を行っている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	・玄関の所には季節の花を植え楽しめる様にしたり、日中は出来るだけ開放し入りやすい様にしている。	◎	◎	◎	庭の手入れや掃除が行き届いている。玄関には、紫陽花などを飾っていた。年末には角松を飾っている。玄関を入ると人の姿が見える。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	・季節に合わせみんなで作った創作作品を飾り季節感を感じて頂ける様にしている。	◎	◎	◎	木の温かさを感じる造りで、梁が見え天井が高い。利用者が活けた花を飾り、古いタンスや足ふみマシンなどを置いている。 大三島分校の生徒と作った七夕飾りを飾っていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	・毎日の清掃や毎月の衛生委員会で環境整備についてチェックしてもらい常に気を付けている。			◎	気になる臭いや音はなく、掃除が行き届いている。窓はレースのカーテンや日よけを付けて対応している。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・季節の花を飾ったり、毎日の新聞を読みその中から話題が広がっている。			◎	今日の日にちがわかる大きい日めくりを台所カウンターの上部に設置して見やすい。また、日めくりカレンダーや1ヶ月カレンダー、時計などところどころに設置している。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・一人ひとりが居心地よく過ごせる場所としてその時間が確保できている。また気の合う利用者は部屋へ招いて一緒に過ごしてる時も見られる。				遊び道具などを棚に収納して利用者からも見えるようにしていた。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	・扉もありプライバシーを守れる様に工夫して支援している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・出来るだけ居室が馴染の空間に近付けるように使い慣れた物を持って来てもらったり全体の居室の配置も自宅の居室に近付ける様に家族に相談している。	◎		○	各部屋にコルクボードを設置して、手作りカレンダーや誕生日のメッセージカードを貼っていた。毎月取り換えをしている。掃除が行き届き、換気などもしていた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	・トイレ等安全に行動出来る様に手すりを設置したり、日頃確認出来る所で食事の準備を行い洗濯物干しやお膳拭き等手伝って頂いたり得意な作業をお願いし参加できやすい様に工夫している。			○	居間のテーブル席からトイレの場所がわかるように大きく「トイレ→」と表示している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	・利用者さんの思いを確認しながら身近に置くと落ち着かれる方には危険の無い様な配慮をしながら支援している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	・フロアに新聞や創作時の材料等置きお茶は何時でも飲めるように台所に置いている。掃除道具は倉庫に置いていが、雑巾がけ時には一緒にする時もある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	・夜間帯以外は玄関に鍵は掛けず自由に出入りできるようにしている。隣の施設とも、特別な理由が無い限り(風邪・感染症)お互い自由に出入り出来る様になっている。	◎	◎	◎	運営推進会議の後の時間に、身体的拘束等適正化のための対策検討委員会を開催して現状や防止に向けた取り組みを報告したり、意見交換したりしている。 玄関や出入り口は日中は開錠している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	・基本的に施錠はしてない事を家族に説明している。また要望時、家族と相談し自由な環境の中で安全確保の方法を探す様にしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	・玄関前に事務所があり何気なく外へ出ようとしている時にはスタッフが気付く事がほとんどです。天気の良い日出来るだけ開放している。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・利用者の心身の状態については概ね把握できている。また個々の一覧表をスタッフが確認できる場所に置き常に確認出来るようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	・毎日のバイタルや食事量・排便状態等一般状態の観察を行っている。日々の記録の中で異常時は個別に記録しケア記録に経過を記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	・主治医によっては土日の対応が困難な方おいでるが体調不良時には事前に指示を得るとこもある。また、主治医と携帯電話で指示を仰ぐことが出来る病院もあり看護師が必要時主治医に指示を仰ぐことが出来るような関係を築いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	・基本的に通い慣れた病院で診察や与薬を受けられるようにしている。時に指定が無い場合でも本人や家族に選んで頂けるよう配慮している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	・体調を崩したり受診が必要と判断した場合、本人や家族へ適宜相談しながら、本人・家族の意向を伺いながら受診や往診にて適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	・通院についても家族の協力が得られ結果報告を頂いたり看護師が必要と判断した場合にも随時本人や家族にその旨伝え検討して頂き結果も報告し情報の共有を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	・入院に際して日々の過ごし方や本人の思いや性格等伝えている。また随時入院状況を確認しながら必要な情報の提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	・地域医療連携室や主治医、病棟看護師と随時連絡を取りながら入院状況の把握や退院に向けての相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	・日頃から主治医との連携や看護師とも連絡を取り合いながら病状の確認や以後の病状の変化に対応出来るように助言を頂きながら良好な関係が保てている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	・日頃から、利用者の心身の状態に異常があれば看護師に連絡し適切な指示を受けたり、看護師が心身の状態を確認後主治医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	・非常時には看護師へのONコール体制が整っている。看護師がスタッフからの状況報告に対し指示を伝えたり必要があれば実際に状況を確認しながら対応している				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	・毎朝全員のバイタルチェックを行っている。排泄・食事量・睡眠状態を記録し、健康状態の把握を行いながら異常の早期発見・対応を行えるようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	・看護師は全員の服薬状況・副作用について確認するように心掛けている。また他のスタッフもいつでも確認出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	・利用者個別で内服薬も管理し、名前や服薬のタイミングで色分け、名前も記入し誤薬を予防している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	定期服薬については看護師が薬効や副作用について確認を行っている。新しく処方された内服薬については副作用の出現についてスタッフ全員で確認しながら看護師に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	・スタッフ全員で服薬後の効果状態や副作用について把握し必要時看護師から主治医に情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	・入居時本人さんや家族には重度化した場合に係る指針について説明し重度化になられたり、定期的な医療処置が必要時、また緊急時などの対応について方針を説明し同意を得、共有している。				この一年間では看取りを支援した事例はない。 入居時には、家族や利用者に希望を聞き基本情報シートに記録している。 さらに、評価に当たっての家族アンケート結果なども参考にしながら、利用者や家族とともに方針を共有できるように取り組みをすすめてほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	・重度化した場合家族や主治医の協力が得られ本人・家族の意向を尊重しながら重度化した場合の対応に係る指針に沿って説明し同意を得ている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	・看取りに関する研修を受け、重度化した場合の対応に係る指針を理解し週末ケアについての受け入れは体制は出来ている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	・初回契約時や随時、事務所で出来る事や出来ない事について家族に相談し出来るだけ本人・家族の意向に沿えるように支援している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	・利用者個々の健康状態について、主治医や家族と情報の共有を行いながら、必用時連携が出来る様になっている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・本人、家族の意見を尊重し、思いや希望を随時確認しながら出来るだけ意向に沿えるように支援させて頂いている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	・内部・外部の感染症対策について研修受講し、感染症が蔓延する時期に、持ち込まない。広めない等の対策を心掛けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	・感染症対応マニュアルに基づき感染症が発生した時の対応や広めない為の対策について研修を通じ理解しそれぞれの役割について体制を整えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	・保健所や行政からのメールや主治医からも流行している感染症などの情報を確認しながらスタッフ全員で注意を心掛けている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	・保健所や行政のメール及び学校や病院で流行っている感染症、ニュース等で情報を収集しスタッフ全員で注意を心掛けている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	・玄関を入り事務所に手指消毒器を設置、職員は出勤時や外出から帰った時うがいや手洗い、また排泄介所に携わった場合はその都度流水で趣旨の洗浄や消毒を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	・行事やイベントの参加へのお願いや必要時の電話連絡や2ヶ月に1回はお便りを送付し日々の様子をお伝えし情報の共有を行っている。				2ヶ月に1回の家族への手紙に行事(誕生会、祭り、行事など)の案内をしており、開催後には参加のお礼を書いている。 2ヶ月に1回、「ゆいの里だより」を発行し、事業所での生活の様子を知らせている。 また、毎月、送付書類に手紙を同封しており、本人の言葉をそのまま記入したり、日常の様子を書いたりして報告している。 6月の事業所便りには職員の集合写真を掲載していた。7月号には、断水時の対策のため洗い物が出ない食事に対応した際の写真を掲載していた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	・面会や出入りは自由にして頂いている。来所時には日頃の様子を伝えたり、日常会話をしながら信頼関係のが保てるように、また居室でゆっくりとお茶を呑んで頂いたり居心地よく過ごして頂ける様に心掛けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	・恒例の夏祭りやクリスマス会には家族と一緒に盛り上げて頂き楽しく過ごして頂いている。来所時にゲームをしていた時等一緒に参加して頂いている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	・2ヶ月に一度のお便りの発行では日々の様子をお伝えしたり必要時には電話連絡している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	・面会時や電話連絡時、意見や要望を確認したり、毎年1回は家族アンケートを匿名で実施し意見を確認する機会にしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	・家族会でも認知症に関する勉強会をしたり認知症サポーター養成講座等の案内も行いながら認知症に対する理解を深めて行きながらより良い関係性が保てるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	・職員の紹介や行事等もお便りでお知らせしたり必要時にはその都度連絡し情報の共有と理解、参加の確認を行っている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	・毎年恒例の夏祭りやクリスマス会・家族会において交流して頂ける場となっている。イベントの中でも家族同士でゲームに参加する等交流の機会を設けている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	・ミーティングに話し合った意見について改善策を家族に説明し、本人優先に考えながら行うケアについて安全安心の優先を理解して頂き選んで頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	・来棟時、状況の報告をしたり来棟の機会の少ない家族には行事の参加や衣替えの連絡を行い状況の報告と色々な相談を行っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	・変更のあった場合は書類を確認頂きながら説明を行い、内容についての質問は常に受けている旨を伝えながら同様の資料を一部渡している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	・本人家族の希望を優先し現状の心身の状態を考慮した上で最良の退去先についての相談、支援をおこなっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	・料金改正についてはその都度文書による説明を行い、同意を得て一部交付している。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	・見学や施設の説明については全戸に配布の支部便りで日頃の様子等伝えて理解を図っている。また民協や老人クラブの定例会時にも説明を行っている。		◎		地域行事などに積極的に参加している。 三味線やギターなどの地域ボランティアを受け入れており、その際には地域の人にも呼びかけ一緒に楽しんでいる。7月には利用者の誕生会にギター演奏してくれる予定になっている。 行きつけの美容室の人が送迎してくれて利用を続けているケースがある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	・個々の住み慣れた地域行事に参加したり、事業所での夏祭りや、避難訓練、ふれあいフェスタ等を通じて地域の方々の参加との交流の機会を作っている。保健センター・福祉センターも利用し他の利用者とのkmお伺い流行も行っている。		◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	・ボランティアでの見守りや調理の手伝い等、協力してくださっている。				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	・気軽に入れる様出来るだけオープンな環境作りに気を付けている。スタッフの孫や子供たちが遊びに来たり、民生委員さんも定期的に来所されている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	・近所住民の協力を頂きながら行う消火通報避難訓練では施設の見学や車椅子講習など、利用者さんとも関わりながら実施できている。夏祭りでは来所され楽しんで頂き馴染の関係が保っている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	・ボランティア活動に関しては昼食ボランティアや学生ボランティアで個々の生活に密着した関りは持ちにくい。消火避難訓練時には近隣住人の方々の協力頂き安全に避難誘導できている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	・地域のお祭りやイベントに参加したり夏祭りやコンサート等で地域の方々をお招きしたり天気の良い日には散歩に出掛け他の棟の方々との交流もあり楽しめるような機会を得られるように支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	・同敷地内の他の棟と連携しながら落ち着いたない利用者さんの安否確認を行ったり近所の店では一緒におやつを買いに行ったり、緊急時には協力して頂けるような関係が出来ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	・地域の方々の参加はあるがメンバーが固定化している。家族へは会議の内容流れ等説明し案内はさせて頂くが参加には至っていない。	○		△	系列3事業所合同で会議を行っている。 地域の人の参加はあるが、利用者や家族は参加していない。 利用者一人一人の状況報告や活動報告を行っている。 ヒヤリハット事例についても報告している。 昨年度実施した自己評価については、口頭での報告にとどまっている。 事業所についての意見や提案はほぼ出ていないため、取り組みに活かしたり、状況を報告するまでには至っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	・利用者さんの状況報告や行事・イベントの報告、ご案内、地域合同の避難訓練や外部評価の報告等は、随時行い意見を頂くようにしている。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	・参加頂いた方からそれぞれ意見を頂き以降のサービスのや会の運営に生かす様にしている。 施設内の見学や意見の結果報告もを行っている。		◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	・災害訓練の時には防災士の方の意見を確認したりそれぞれの参加しやすい時間帯や、次の開催日時についてその場で相談し出来るだけ参加頂けるように配慮している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	・玄関に会議録を誰でも閲覧できるように置き案内している。内容については家族の来所時に話題とし参加をお勧めしている。				
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・良く見える様に大きく掲示し常に確認出来るようにしている。ミーティング時等で理念の再確認を行ったり振り返りの時間を設けながら理念に沿ったサービスを心掛けている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	・新規の利用者さん、ご家族さんには必ず理念の説明を行っている。また来所時には良く見える様に理念の掲示を行っている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・年間研修計画も多くその中から重複しない様に職員個々が望む研修に参加している。研修報告もミーティング時行い共有し周知を徹底している。				職員の健康診断とともに、ストレスチェックを実施している。職員の入れ替わりは少ない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	・個々の役割や勤務状況等確認しながらミーティング時一人ひとりの個性を生かした話し合いができるように進んでいる。また話し合いの中答えを導き出し生かせる様に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	・処遇改善については、積極的に意見を取り入れ必要時には迅速に改善している。毎年全体研修を通じて一人ひとりの向上心が持てる機会を得られるようにと努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	・地域密着型サービス協会やグループホーム交流会に入会し研修会や意見交換を行っている。 意見交換時の情報について参考になる事柄については迅速に取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・ストレスに関する研修や、相談窓口、処遇改善の備品の整備、購入等もありストレスを緩和出来る様に取り組んでいる。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	・内部・外部年間研修計画に高齢者虐待防止・身体拘束についての研修を必ず実施し受講している。ミーティング時他のスタッフへ内容を伝え全員が周知徹底出来る様にしている。				外部研修に参加し、他職員がミーティング時に内容を周知して全職員で勉強をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	・日々のミーティング時、及び全体ミーティング時の意見を確認したり日常会話などから日々のケアについて方向性が間違った方向に行かない様に随時確認している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	・普段のケアの中不適切なケアや利用者の人権侵害に当たる様な行為や声掛け等が見逃ごされない様にスタッフ全員が気を付けている。発見した時の対処についても研修を受け理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	・スタッフの利用者に対する声掛けや普段の気付き、態度の変化を感じ必要時には声掛けしながらケアに直接影響が出ない様にと心掛けている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	・代表者及び管理者は指定基準を理解し適切な運営が出来る様配慮は出来ている。すべての職員の理解については研修の機会もあり、正しく理解出来る様に共有している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	・研修を基にミーティング時身体拘束の項目を再度見直し、身体拘束や虐待防止を心掛けている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	・家族からの要望は今のところ無いが身体拘束や虐待行為に当たると判断した場合、他の方法や手段が無いが相談し検討するようにしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	・管理者は権利擁護の必要性があると思われる方に対する対応の仕方や相談窓口については理解している。スタッフ全員については、研修に参加し報告し共有できるようにしているが十分とは至っていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	・必要があると判断した場合、その状況の説明や必要なサービスの相談や、専門相談員窓口等の案内を行う等の対応を心掛けている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	・常に包括支援センターや相談課、その他必要な機関との連絡体制については迅速に対応できるように体制作りが整っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	・緊急時対応マニュアルを整備、研修を実施、受講しながら緊急時冷静に判断対応が出来る様に心がけている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	・緊急時対応における初動方法等内部研修で実施しながら現場で直ぐに役立つように、職員全体で周知徹底を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	・事故報告書、ヒヤリハット・インシデント報告書の他に簡単ハット等職員が個々に気を付け、事故の未然防止に心掛けている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	・個別ケアチェック表により必要なケア、危険個所について周知し安全な環境を整えられるように心掛けている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・苦情対応マニュアルについて整備し、どのように対応すれば良いか管理者は理解し、適切な出来る様に配慮している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・苦情対応マニュアルに沿って、適切に取り扱い、解決に向けた対応が出来る様にしている。相談窓口も一カ所だけでなく、市や県の窓口も玄関に掲示したり初回契約時には書面及び口頭で説明している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・苦情対応マニュアルに沿って、頂いた苦情に対して迅速かつ的確に、丁寧に対応し、納得頂けるような解決方法の提案や相談を行いながら、前向きに話し合いが出来る様に心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	・事業者からの利用者用と家族用のアンケート結果を実施、結果については集計し、事業所長・代表者を通じより良いサービスが出来る様に、また電話や面会時に話す機会を持ち意見も頂くようにしている。			○	運営推進会議には参加していない。 年1回アンケートを実施し、集計をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	・玄関にご意見ポストを置いたり、毎年匿名でアンケートを実施頂いた意見を基により良いサービスの提供にと心掛けている。	◎		○	運営推進会議には参加していない。 年1回アンケートを実施し、集計をしている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	・初回契約時に説明紹介している。また利用者・家族等が苦情や意見が言えるような関係づくりをと日頃から心掛けている。				日々の中で聞き取っており、管理者は「あなたの親だったらどうする？」と問い検討している。
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	・毎年一回定期的に面接を行い個々の意見や要望・提案事項を確認している。また定期的に行っている管理者会においても意見や要望についても話し合い早急な対応へと生かしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	・日々の活動の中において意見や要望・提案事項等伝えやすい雰囲気づくりを心掛けている。また出た意見等についても迅速に対応し職員個々の達成を感じて頂き利用者本位への支援にと心掛けている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	・サービス評価の意義を話し合い、個々の自己評価を集約し事業所として一つの自己評価を完成している。				外部評価実施後の運営推進会議時に結果を説明をしたようだ。昨年の自己評価実施後は口頭での報告にとどまっている。目標達成計画の状況を家族と話したことがあるようだ。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	・事業所として現状が見え改善に向けての話し合いは行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・外部評価を受けた後の改善項目の検討について話し合い全員で取り組み改善できるように取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・評価結果について、達成計画の取組みについて家族に送付したり運営推進会議のメンバーに報告し意見を頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・目標達成について取組みや結果について運営推進会議や事業所内のミーティング時に報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	・豪雨災害時の訓練を実施しマニュアルの修正、整備。合同による火災消火・通報・避難訓練を実施し改善点を話し合い周知している。				昨年6月には近隣住民と消防団、警察と一緒に災害訓練を実施した。話し合いの場では、避難場所の見直しが課題に挙がった。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	・どの訓練も夜間発生を想定しての訓練を実施し夜勤者の取るべき行動は理解出来ている。また日中や職員が多い時は図上訓練により一人ひとりが発表し確認合っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	・災害マニュアルの各点検項目に沿って消火設備や避難経路、非常食や物品の確認を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	・毎年、6月の第一土曜日と決め、地域や消防、行政、警察等合同で消火・通報・避難訓練を実施し反省会により今後に生かしている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	・地域のネットワークづくりの一環としての毎年1回の地域合同消火通報避難訓練を多くの方々の協力を頂き行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	・地域の方々を対象に認知症サポーター養成講座を開催したり、内部研修や外部研修においても認知症ケアについて積極的に参加している。				法人全体で相談を受けている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	・施設の見学や相談については広報やお便りで発信。電話や実際に来所された方には相談に応じ必要な対応や助言を行っている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	・年末の老人クラブの方々との合同餅つき大会やマンドリンコンサートや夏祭り時には地域の方々の参加も多く交流の場となっている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	・介護ボランティアの受け入れや地元小学校の職場体験、中学校のジュニアサポーター研修、分校生の交流研修等積極的に行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	・避難訓練を通じて市役所や消防、警察、運営推進会議や地域ケア会議等で市役所、保健師との交流を持ちながら連携体制を整えている。			○	中学生の福祉教育実施の準備段階で、中学生に向けて認知症の理解について話をした。 老人クラブ合同の餅つきを行っている。